

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人正恵会		
事業所名	グループホーム宝寿の里		
所在地	栃木県宇都宮市宝木本町1769-1		
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、市の北西部に位置しのどかな田園風景の広がる中に特別養護老人ホーム宝寿苑と隣接して建っている。法人理念に「自由にありのままに」「暮らしに喜びと自信を」というホーム理念があり、利用者様の希望を取り入れた外出を多く設けている。一人ひとりに合わせた時間の確保、支援することによりスタッフも寄りよいケアができるように日々勉強し手いる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、市の北西部の田園地帯に位置し、同法人の併設する特別養護老人ホームと連携して運営されている。当法人の敷地内では地域で開催する納涼祭が行われており、入居者と地域住民等との交流の場にもなっている。また、地域の長寿会や地元の有志が主催する芋掘りに参加する等、地域との関係は良好である。ホームの中庭ではカボチャや西瓜等の野菜を栽培しており、食事やおやつに出したり、天候が良い日には入居者が中庭の椅子で談笑している姿が見られる。入居者が以前行っていたお店に出掛けてお店の人と話をしたり、年3回程の「外出週間」では、入居者の希望を聞き、近隣施設や日光方面へのドライブ等に出かける等、外出支援にも力を入れている。さらに、一人ひとりの思いや意向を把握するため各職員が家族等から情報を収集し、入居者の年齢毎の「生活ノート」を作成して支援に役立っている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念として、「ゆったりと楽しく」自由にありのままに「一緒に過ごすケア」「暮らしに喜びと自信を」「地域や自然とふれあいながら」があり朝礼の際毎朝読みあげている。理念に基づき利用者様へのケアを行っている。	法人理念及びホーム理念、目標や運営方針が事務室内に掲げられている。毎朝の朝礼時には代表の職員が唱和し、他の職員も確認を行い、理念の共有に努めており、日々の入居者の支援の実践に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長寿会に2ヶ月に一回参加している。近隣の中学校の国本中で今年も茶摘みに参加した。今年も8月に地域を巻き込んだ納涼祭がある。	地域の長寿会の会員になっており、毎回5名程度が参加して地域の高齢者等と懇親が行われている。ホーム近隣の方が芋堀等の行事を企画してくれるので参加もしている。地域の納涼祭は当法人の敷地が会場となり、地域住民が運営しており、地域とは密接な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回開催されており、地域包括、自治会長、管理者、利用者様を交え、行事の報告や、サービスの向上に向け話し合いをもっている。	運営推進会議では自治会関係者や地域包括センター職員から、地域の情報やホームの運営に関する助言を得ている。会議における提案から、広報誌「ほのぼの通信」を作成する等、会議を運営に役立てている。入居者家族は以前は会議に参加していたが現在は参加していない。	運営推進会議に再度、入居者の家族にも参加してもらい要望等を聞いたり、会議の議題によっては地域の消防団や駐在所の警察官、民生委員等にも参加してもらい、更に充実した会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		市には、介護保険の更新手続きのため出向くことが多いが、市担当者とは電話で制度や運営上の課題等を相談し、アドバイスをもらっている。	市担当職員にホームの行事や運営推進会議等に参加を呼びかけ、ホームの状況を把握してもらおう等、今後は相互訪問により、更に市との連携が密接になることに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開き、各スタッフに周知した。また、家族交流会においても、身体拘束の意味を理解していただけるよう会議を開いた。鍵においては、防犯の意味で夜間のみ玄関の鍵はかけている。	ホームでは身体拘束に関する事例を基にした勉強会を随時開催しており、協議や意見交換を行っている。年2回実施している家族交流会等を利用し、身体拘束をしないケアの支援に取り組んでいる事を説明している。玄関の鍵は職員の見守りにより日中は施錠していない。	

グループホーム宝寿の里(寿ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部のスタッフは理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を行い、その際不安なことや疑問、質問等に答えている。また、一部の利用者様家族に葉、解除権、契約の終了について説明したことがある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の方に少しでも要望が聞き入れられるように耳を傾け話す機会を作っている。家族様にも定期的に連絡を入れ、相談、意見等聞くようにしている。苦情処理制度を設けている。	年2回の家族交流会や毎月の利用料請求時等に意見や要望を聞くようにしており、出された要望等は協議し対応に努めている。預かり金の明細を出して欲しいとの要望に対応し、明細書の発行や家族から確認のサインをしてもらうようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回ホームの目標について管理者、スタッフで話し合いの場を設けている。その中で〇〇したほうが良いのではないかと意見交換したり次の目標を掲げて実践に向けている。	常務理事と職員の推進会議を年数回開催しており、意見や要望の他に目標の達成状況等の確認が行われている。中庭で栽培している野菜の種類を増やす提案により整備に向けて取り組む等、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援制度もあり、意欲の向上、処遇の改善にもつながる様になっている。医師によるカウンセリングも実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人のスタッフに葉認知症について一から勉強する場を設けている。チューター制度を設けている。		

グループホーム宝寿の里(寿ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを見学した。今年度も実施する予定。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の方に少しでも要望が聞き入れられるように耳を傾け話す機会を作っている。家族様にも定期的に連絡を入れ、相談、意見等聞くようにしている。アセスメントの見直し、モニタリングの実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が面会等にいられた際定期的な情報の伝達、意見交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況の変化に共ない同法人、他の特養などの申し込み等家族様から相談を受け他事業所との連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動の観察を行い、その行動にあったケアを行うようにしている。その中で喜怒哀楽の感情をともに共感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族にホームに来ていただける行事を計画している。面会は自由で家族様と利用者様との時間、空間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのある場所には各利用者様家族様と協力しあい実施していきたい。	ホームへ入居後も入居者の馴染みの人や場所との関係を断ち切らないよう、以前よく行ったお店に行き、店員と話しをしたり、昔の馴染みのパーマ屋さんに行っている。馴染みの場所への訪問は本人の満足度も高いことから今後も継続して行きたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの仲介で話の場の橋渡し、一緒にできる簡単なレクの提供、こうした面はこれからも取り組んでいかなければと思う。		

グループホーム宝寿の里(寿ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフのレベルの差はあるものの利用者様本位のケアやできる事を見いだすことを心がけている。	各職員の聞き取りによる、入居者の年齢毎の生活履歴が分かる「生活ノート」を作成して、暮らし方の希望や意向の把握に役立てている。意向の表出が困難な入居者には表情や日々の小さなサインを見逃さないようにして思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の御協力を頂きこれまでの生活歴等簡単なものを記入していただいた。面会に来られた際にも、家族様から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を儲け細かい時間で記録をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		介護計画作成には全職員が関わって、職員が気づいた点や入居者のプラス面を取り入れたものを作成している。また、基本的に半年毎に見直しを行い、入居者の現状にあった介護計画を作成しており、家族には面会時等に介護計画や変更点を確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は認知症の理解と観察力が必要である。細かい記録行動の観察力を全スタッフは持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の相談、おむつ券の支援、通院支援、訪問歯科、介護保険の更新の手続き等行っている。		

グループホーム宝寿の里(寿ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防とは協力し避難訓練を行っている。一人外出してしまう利用者様は家族様の了承を得て、駐在所へ情報提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と相談しかかりつけ医の通院、ホームドクターの往診、協力病院の通院、近隣の専門病院の通院と分けている。	入居時に家族には、かかりつけ医を入居者の従来の病院かホームの協力病院にするか選択してもらっており、殆どの家族は協力病院を希望している。協力病院に診療科目がない病院への受診は家族に対応してもらっている。職員間での入居者の受診結果に関する情報については、共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の早期発見に努め、ホームドクター、訪問看護師、同法人の看護師と連携をしながら、相談等できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に第一病院になるが、情報交換は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している利用者様の家族にはまめに連絡を取り相談や話し合いを行っている。スタッフの観察力が重要視される。	終末期のケアについては、今までに何度かあり、職員は経験を積んでいる。今後も、主治医や訪問看護師等と連絡を取りながら、本人や家族の希望するケアに取り組める体制が出来ており、看取りについても取り組んでいきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回全スタッフが避難訓練を行っている。	同法人の併設事業所やホーム独自で日中や夜間を想定した避難訓練等を消防署の立ち会いも含め年2回実施している。地域住民との合同の避難訓練は実施していない。	災害時の対応は、法人やホームだけの対応には限界があることから、今後は、近隣の地域住民との協力体制の構築に向けた取組みに期待したい。

グループホーム宝寿の里(寿ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重し言葉掛けには充分きをつけている。	入居者一人ひとりの誇りを尊重しており、入居者の呼び方は苗字や名前に「さん」付けで呼んでいる。赤ちゃん言葉等の侮蔑する言葉かけは厳禁している。広報紙に掲載する写真は家族等の承諾を得ている他、個室の施錠も自由となっておりプライバシーが確保されている。個人情報等の記録類は事務室内で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何も訴えることのできない利用者様が何かを訴えたいことに気がつくことができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容はほとんどがホームに床屋が見えカットされるが、本人の希望を取り入れ近隣の床屋に外出する事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と席を並べて食事をしている。簡単な食事の下ごしらえや味付け、おやつ作りなど行っている。中庭に季節の野菜を植え毎日収穫している。	入居者個々の力を活かしながら、キュウリの薄切りや味噌汁、おやつ等を作ってもらっている。また、誕生日には特別メニューを取り入れ、食事が楽しい物となるよう配慮している。外食は年2~3回全員で出かけており、希望が多い蕎麦屋等に出掛けている。献立は管理栄養士に確認してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、食事形態をその利用者様にあわせ提供している。外出や入浴後などには水分補給を欠かさないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが行っている。週1回訪問歯科にて口腔ケアを行っている。		

グループホーム宝寿の里(寿ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が見られる様になった利用者様には、トイレの声掛けをしている。排泄介助の必要な利用者様にはその方に合わせた排泄の工夫でなるべくトイレで排泄が出来るようスタッフは努力している。	排泄の自立ができるように、こまめに声掛けをしている他、入居者の排泄のパターンを把握し、仕草やサインを見逃さないように工夫して支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や、水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう利用者様が入りたい時間に入浴されている。	入浴時間は概ね午後2時から夕方の時間帯で入浴しているが、入居者各々の生活習慣やその時の希望で夕食後から午後8時頃までは入浴ができるよう対応している。拒否傾向がある人には希望を聞きながら入浴のタイミングを見計らう等、職員間で工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者ということも配慮し休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はスタッフが行っている。服薬の目的や、用法、用量等理解している。誤薬を防止する為名前、顔を確認しながら服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別支援。その方に合わせた楽しみごとを見いだし各スタッフは取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化しているも散歩やドライブ、行事、外出週間を儲け行きたいところに外出している。	年3回程、季節や天候を考慮しながら「外出週間」を設け、入居者全員が参加している。入居者の希望などから、宇都宮動物園、ろまんちっく村、日光方面へのドライブ等を実施している。当日体調不良等により参加できなかった入居者には後日対応している。	

グループホーム宝寿の里(寿ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部ではあるが電話で話し足り、手紙はスタッフがそばについて書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節にあわせた「絵」を飾ったり、花を生けたりしている。	共用空間には季節に合わせた絵を飾ったり、花を生けたりしている。また、入居者の作ったジグソーパズルの壁掛けや行事等の際撮影した入居者の写真等も飾られている。天窓が設けられており、採光は適切である。また、ホーム内は清掃が行き届き清潔に管理されており、不快な臭い等は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは自由に使っている。食事のテーブルの座席は利用者様の人間関係を考慮し注意を払っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具や布団の持ち込みは可能。本人に合わせた部屋の工夫をしている。	居室には洋室と和室があるが、それぞれの持ち味を活かした居室づくりがなされている。各居室は自宅で使い慣れた筆筒等の家具類や配偶者の位牌や家族の写真等が持込まれ、入居者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中はバリアフリーであり、手すりが設置されている。		